續撰要毛詩十二編

中

へ遠13
1164
47

へ13
1164
47

内閣文庫

水戸

海野信盛蔵書

續膝栗毛十二編

いつぎつぎ殿ぐかの。出る新ものうるさきもふ無客の弾とうるさ

出ものつ久下村ふいるる。此絵久下の次第恵光ぐ。居程

の地ちろ。ちぐ。ちぐ。ちぐ

扇

五医舎
半九

て。そこへ出あつたが。婚礼（ぎれい）とらんすのぺぢおるどのまうるい
うじてあるうんじやさうい。ふりてあるもおるどそで。
ごでもぐつくとたべるよ。ぎやまるうんぎやさう
ぺぢうちゐどぺ。どどぐつけうこるつとぬんふ。ふんでー
ととさとて。そそとうー婚礼（きれい）。ふつづけで居（ゐ）やとぐ。
なるわどぺ。ふつよいそそもあう。まこそそぐ。ぎやま
まるぺて。ふつゆうそひとるつやを。あるゆへとるつやを。
いつそのとと。ふりおとてきまんぺ。せんがかて

（笑）いつよいやうやつふつおとてことぐ。あふこ
らうるぺ。のあつこ寺でお経（きん）ぐまでまるこめつさ
まうてきんとおりて。少（ちぢん）考よくまふふてさんと
きぺ。ぎうさうこりやふーぎるとふちやうんまのさん
まぺ。ぐつこぐふてあつこうのぺそそるぺ。ふーそそうくお
そーやとんうこ。ふちこちこぐてぺそそもぺるいりん
ぎやさうい。人（ひと）はきふこー。今ぬぐやゆーたぐそるいる
ふつのものと。弟（おとうと）貧乏（びんぼう）のお婆（ばあ）めぐふてあふくこ。

うへいしんぜんせとうさうしんのうらい
うつさふさうつてらいてんさうやうぐちふゆ
やつむゝやうくとくてゐるやいゝそをこちくおさせゝ
こゝまへてをんこゝやをんのいるそをいるかいでやるうて
きれまいもうてあるのゝでやあゝこゝさういゝゝゝゝの
ものがるいひようと殺へでも入をておきを見んうと
あの独ををもるいさうい学をいてゝあるをてんゝゝそこ入
かよろうと出ていさゝゝゝやあゝゝゝゝ

とうとうとやまうとが今ちうとは是はやまうらふんどし
うらとやがうぜもあるとゆうとうんどやどうら
ヰヤあるうとうとつひさうふんどしやがかくちらが
うちの樣子まうとうとうとつうとつくまいくやう影
るふも程度ち稼人のさヰヤ程度あるうらうこゝはお出人
のそのふんどしうどうとのどやどのうヰヤ
そもそもどうとうとうとうちのふんどしの此係
とおめいはさられるおどんち稼人ヰヤぎんこせあや

るふんうらうる。大うとおまへそのふんどし。稼ぎさん
まうこのしやあうどいやどうるとうとさんまの（稼ぎしさ
うるとうとうとうやうとうとうと

ごとくしてそのまちまちまち

かるのきの
ゑ園
さーて
のるゑへ
よみて
逢ハぬ
をきるへ
宝和庵
一性

正直の
杖を
ちのうよ
ゆよこそ
欲了
目のをき
人丑
おきれ
十返舎

ふんどしの四付があこうぞうる。こーや三尺帯もひとくまうう
ぎゃ。ぎゃうがうるいさうい。そりゃどーあくまうのちうめん
の志どれ。ふんどーとん。あひいつきぎゃうるうぅ〜〜とさ。
どーらいんぎとこ。きゃうともくあとさんせ　トけせてあくいきらいよ
とんどうふるわいそこふ
ぬあろもーかめる。きうあるとやぐきこハがいどるくくこうぐーや　あてぎう
つけんくきれどもいうぎどいうこいちれかげさるぐのやーどあてきこハ一ぢん
あくとろ。ぎーきことちくるるぎ。ちくめんの志どきこちいのかの。衣々とこにし
あいどうよう。せううてあくとろけ。とのわくしのかのもちくきとよくうこと
半どろあてちるいとくくうれて出ろうしが。ちくあてありしひつき。
ふんどーるきるくふ。うり。されどこの俗の志どきるれば。そあうけとどくぐ。
いひつのく。きこハのひうけうぐどぎ。コレいうせてあきゃァ。ナ、
えーるどーう。こどくはくとくんせぎ

そあこどうくとつきゃァぐる。ぎ編細でさんあるゃァ。きさ
まのりめう。あてぎいるるとをぬうとくぎ。ぎ号〜〜孫人ぐ。
うどーく。きうう。うーう種瘻でもあるくくうーのぎゃういみ
せうこと。そのふんどーく。何ァハぬまあくとうと。きってうるる
どうーどあいの志きとくとふんどーいふくきまくとかのど
ンしくそーやさうい。うーがのふちぐひいるいぎ。ーくこってて
ァくんせ。ソりゃいくくぎ。あるるうる編よくくせうこーや。サァ
あくうこめてァくんせ〜〜トけいさうきまくつるどきこハのうこ。
えんぐどぐぶあくうるとかれどさきこぐの

きこハ者ゆげとくてゑとあ〜〜あ〜〜〜

こゝをとつける男ぐ。あるこまをすで。外風をかゝせやアゞ門こ
六
〜イヤりかくしひつとるゝ〜さことこんぐことアア。おぢりへ
孫八。ヲいこゝゝ孫八かめぐ。家に〜〜トつぐやきるゝゝゆきくて。
あもくよいこゝ乃。あきびくの乱のきを
るゝべでおぎかひるをとをきこを
鰻屋つけ。あきびく。高人のちゝひ。ゆこ。ゝ
とゝくこまゝゝぬ。陽の巣の宿
陽
〜るんごゝあるこ。けこゝゝ。むゝがかぶてるゝ孫八。ちゝこ
体んでいゝトがゝぎるの茶やへまるとあくのでゝきる。体二人でき
こをとけてやきこいゝゝたるがひとゝのさふゝ

ナニト捨身氏。乃中へこゝ。堅歩でるゝこへ。このゝ〜ゝ孫
あい
おるゝぬりのでどぞる。拙出るどへいぐいゝてゝ。江戸表
出之の御よゝ。後痛がゝゝて玉雑義いゝきが。今日も
きや雪場へおよそ七八度もまゝゝてどぞるが。又ゆ
兵衛。まきゝゝるゝて中の門。体退屋でどぞゝゝ。
おさ孫へおとゝるさま。拙出へ言張へまゝゝちゝと。
いゝゝて中へどぞゝて〜イヤ雇用氏。体拝拝でどぞゝが。ハテ
1
何ことゝまどぞゝ中の出家ゝ。後痛いゝゝて。

まきうま引くまをが。をでる只今雪降へまうこそよ
とそんじと申。そのうち先おさんへお出なさまと〳〵イヤく
さまうなら。まづくそなたうち。おとうさまと〳〵ハテ先生殺
とや。お年寄るぞのづまとあもを稀うう〳〵まうこべ矣猪
るぐうおさんへまうこそでどざうう。はめんなさまと
ひさまざまきさんの上さうへめ。〳〵ヒヘンく〳〵とまこまうこと
戸とあけんとまるホどうえの内よう〳〵ヒヘンく〳〵とまこまうこと
りの武士ちぐるとおれこの侍二人はとうくまとれく。まぐあいひる
ぐうくうもう。逃てうまうこうよ。どうちんへゆきうくうなうれべちうくう侍い
さんへまうこどうくうる侍〳〵さんへふきうくどうう。まぐ小雪

そんじ降るよおうんでどざうとまの関係へうん。
そもそんおとうるさまとてへいくぐ〳〵イヤ武士ちうもの。ち弟
ぐりのゆきあるう雪降へまうこと上雪降へ。
あいまち
お待まをうう〳〵いうさうるさまうるコノまこと上雪降へ。
ものぐをいつてあるゆう。ちるうぐ。ちふどざうるトいひてハの
ちうとうこ
〳〵コレく〳〵ちうう雪降へちうあるへきさうるの同道のおとうう
ハイ〳〵さまうどどざうまもと〳〵十二月腹痛でもいうくあるう〳〵イヤ
さまうどもどざうまをぬが。ちうく雪降のをんをるおとうで。

一ぴきめ
ふーせん
酒屋

遠唐
仲人

どこへまいつても。百姓をたゞるこまつまと。そ
ぞう〳〵。居んのつせろちんへでもまつまとと。ろう〳〵
一所や。さ所でハ。歩てまいつませぬ〳〵。そもとハ大変ろまつご。
ヨ。ハ。ろ。ぞ。ろ。ぞ。ぞ。ろ。ぞ。ぞ。ろ。ぞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きてまゝこゝろてまをうとせしをとゝ
ちとうまをせトてゝ[illegible]ちんの時ハ[illegible]ちとをんん
ちんのまへ　まえ　安井門ゞある。あやゆくゝ
次のかのゞ[illegible]ねゝ。ゝれゞ〳〵ゝイヤとゝゝ紙ゝまと
そこの柳のまゝる所へあまをまゝ〳〵そそれとちゝゝと
ゝゝゝゝゝゞゝまをゝゝイヤ　ゞゞもをゝゝてある内へ
まゝゝるゝゝゝる所ゞ紙ゝまをゝとゝよあゝゞゞもゞ
出てゝゝあゝゝゞをゝもゝゝゝイヤ〳〵ちゝゝるゝゝちゝゝゝ
ゝゝよゝゝゝゝゝ

ハイ　ちょうしゃくあっとときこへて　あまとこころ　おやアはぐ
ちゃくちゃ　さっきのちんぴらのとこへこへて　ぬがおらしい
ハイ　イヤちんぴらとはなしちゃア　あやまるのハアどうも
むーがかがハて　まこいはてくよりあごト　ちょうちんをとお
さっちんのきハレく　きょうをおろーまとへあとびひよ
くとはきっち　ちょうしゃくまへ
ちょうしで　安堂ちょうしこれよりあとおよ　拙者がちょうしこ
よりとのことでぐろうろう　ちょうえの茶代ゆよおよびま
きまい　茶代さしひきよ　仕ぐらハイヤ　さっちふもちょう

まちとまいぶ　ちょうしぐろぐろ　そのとこちとやきけめも　俗よ
ナを　掾のちょうの力持とゆーでどぶろろ　高こをへそ　ちょうえ
ナきりまちょう　コリヤく　高こをく　ちょうあくまきこと　別紙
でもるい　オぢでも　人の茶代　ハ銭　ちょうしこさく
あくぞ　ちょうく　ちょうくまうとこ　諸中のこと
ゆ　ちょうこぞよちょうこ　ちょうくまちょうさくつくちょうこぞハイく
ちょうこちょうあくちょうこちょうまちとハイザ　おとちょうさこ　コリヤ
ちょうこちょうちゃ　ちとのちょうくゆくゆ　ちょうこちょうこ　ちょうちゃ
ちょうこちょうちゃ　ちょうくちょうこちょうこちょうのあんだい

悲の明
黄丸

猿の
十字亭

あく〳〵やうをとゝのへ（調）そこなふて（損）こゝろをれて（こゝろ折）ひどくかぶけてきつゝ。ア（ア）こゝろ〳〵（心心）とゝのへ（調）ぞ（ぞ）ゑもうこゝろのぶ（伸）ぞ（ぞ）ゑもうこゝろ（心）

稼人（かせぎにん）久人（ひさびと）ぞうるさされまゝ（まま）こゝろ（心）むつかしがるそわさ（わさ）へ（へ）ツリヤア（つりや）

きめうるまゝ（まま）ぞうるいぶ（いぶ）ぞう（ぞう）まゝ（まま）だんのうだめも（だめも）と。三郎（さぶろう）

かめきるさうと。ぞ（ぞ）ゑもうぞ（ぞ）ゑもうぞ（ぞ）ゑもうのきれとのゝ（のゝ）ゑもうこゝ（こゝ）まを

そんなもの（そんなもの）ぞ（ぞ）ゑもうぞ（ぞ）ゑもうぞ（ぞ）ゑもう

[illegible]ませ。コリヤ〳〵おちんぽい。ちりのうちく。けおうこうぐと。おつよと

ヤセ　トらてと。そどうちのまつ。[illegible]とおどめる。十二三のかせさたよまちそやく。

よ。[illegible]ぬ。[illegible]れて。おとくいづれハけ[illegible]ぼんさ[illegible]

おまつ。まづちもあろう〳〵ぬまこ。きれいやもあるぞうちそ。うのあんるい

の女のさが。ちまもあるぶの女。ちのうせいハだうあそ。とうれあさ。ぞうろれ

ぞも。きろうこと。ちろうの。[illegible]よんお生ろうま〳〵。ぞ生ぐふ

[illegible]きさきんそ〳〵。まうぞ〳〵。

おさとう。ろさう。ませ。おこさあ〳〵。をあやまぐろうこうませとう

ぬハ　ヘイヤりさこうるぐんうう。ませ。あこまんまぐう〳〵。ぬるあ〳〵。ぺる

どまやせぬ。トそをけそもぐよ。ぬ。こりやアあせんまるうやまと。

とのんぐちと。藏のあんぐまるいうう。ませて〳〵。ぞん生さんせ

ふうどうやをとう。あとのこゃ〳〵やまと。ぬそれハ[illegible]ぬうんぎ

さうでどうませう。てアあく〳〵おうと。おうこだこがん

りめとうけちやト。門ふうろハあく〳〵。ぞるこ。ぬ。こと〳〵。女中。ぬと

ふとん。[illegible]ぞ。[illegible]ぬ。[illegible]てきてこんるいハイ〳〵。トとれだうろ。ぞうぐ

りのそふうとぞぶふ。[illegible]ぞうこまうこと

ふうろハ。[illegible]ぞうこ。ぞ。

コウきこハとのくぞれ。高ぞ生るぞ。ぞうるうく

きのきこうこうきぶ。ぞ〳〵。ぞ。ぬ。ぞ。ぬ。ぞ。ぬ

そのあんまよんでもらひて入るトまもなくてハイかよびるさうまいりこうしまるあんまあるめくうハイ出のかくるよ。女の針医さうなどどうまもあんまもしまでどざうまもうこ。そこゆてつうへこませこ。コリヤアまあうこ。きこがあるこ入づでざざうまもおそうでもこてかうこひるさうまもトひまそかきこがあだこくこてせのそうめ。三十ぜメのあもきふこのあるあハふそうもしげやそふこうるのいつるひとくだそうをめううときそうハイはめんるうまもせ

ハイあんまさんハイおそうハあるようどどうまもとうハむこが

かざがもそうやせんこう。ひとてへこハイとてへこハイとてへこのまそそうてあるそうまもトふそうが祈てあるそだくきこうるるだこうそのそうくくうきくくとまうけてもくくハコリヤおそうひこくつうこくまもそうさんざあるうどどうまもトふいふうまもとそうハこうちがまもうハまこうひどうがおめくうのおそうるこどみこうそうこくくくこうんこうこどこうませんトまもそうハあうこくくくこうこうこやそんどふこもうハよくておうくうこのそうこうるまでそこうどうるこうこうこうるまでこうこうこう

さきちろうしてそうんるせ。そのおうぐろく。むぐおちつぐ
ろう〳〵そんるう。接板いろ〳〵てあげまさ　トそうをあち〳〵
らうちぐ。おうげで大紀よりくうゆ。ぐてれのこと
ぐ。とこのゆ。ト
ぐ。ぐ。ぐ。

自主庵
天久

常丸

ごつもつごぞちよろまうてやろうとおすつとめろうう。
ニアそんぞとろるろろうと。しそんぞやア孫人う門そそもど
とゆて。今時分うう。あんまうだうげとそるしぞハテあそん
出入つと所ぶ。まゆてめる女房子まいるし。そんまよいそぐ
ようけあやアあそう孫人ト門そうそうちうしきのうやつけそかち
あんおうぞきへるんのとつど。今出でむしがゆづるのきんの
孫ところびて。
と。今あでも。おもやうる孫をしていろうけがりみちろと
いしと。ろくくあざけとそどろうらいそんるう。おめんさ

今ろおそろのよそるせんおいうんアきおめんがそろ
をきるうち勝ちまんいゆてそるうしとがそのさがも
さろうのごぞうあうそそうう合の。米そうるもある
うう。とゆのおいうのあのときめやさう ト おそろうそそ
そそろしそろる
ごさい
ところぞとろるめのむしをぞうるふちあそんがんまの女門コリヤ出ま退
あるトの女門んごろうとさげてゆとくぞきんきうて
ろ
ろくさるまでぞろうまそう。おびさう服ハ孫そどろう。まの女門んバ
ひとゆおおぞうるさろうまそ孫ハそそんハあうがて人サアイ
おめんハそこでおぞうませんろ門ハイ お砂でもらとうまそう

ト江戸のこまもじめてぶんぐぶことさぐぎとへあるこげこ。江戸八
まんまとみ。ゆもうるくもこまこ。ひきこけのこそへ

ごろうちゝどどざうまきと。アイ神田の八丁わりさこ。

の先生も。神田でどざうまゝこ。陳おめへの先生こそ八。

お師匠さうのこと。ゆとるゝひるさろこ。生花や茶

の湯。書画のやうるかのうアイエコこゝ八。一刀流の

剣術とゐいこいゝうまゝこ先生こそ。宍戸山左こそ

と中て。二三年あとゝう。武者修行ゆ出ゝまゝこ。

こゝの祖父八。ゐゐ一刀流でも。一流とゝてこ人で。

そゝこゆへこゝも。初めのうちゝ。ゐのこいこゝまゝこ。

との三ゐ年あとゝまでゐ。あゝきまつとめて。お振れへ

ぎこ　ごゝこ

ゆ刀の出精南をとゝてちうまゝこぶ。こゝのうけ

で。おいゝゐと。孤ぶひまゝて。今こゝふまゝてちうて。も

ゐの美ゐ流ゐゐ。ゐまとゆへ。接ゐゝこゝこづの精

こう　ゐのぞる　よんどころ

南こゝてちうまゝこゝ。後ふゐうゐこゝとゆ。まつゝゐ。

まゝこゆへ。ちやうゐ。ちうどざうまゝこ。ト　ばこゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。

さめまゝてあきれ。陳ゐゐこゝ。ゐゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。

ゐるのうそつかおめくのいうそ小仙合移べそんざ
ものくぶ女ものとうろうゆもかくしてあり
まもごうごできつゆう。ゆもかくしてあり浪人流ごうこげ移て
又べくまもまもゆべこうゆうまもぼ日あくゆも。ゆ宿
そづまこの茶屋で。籠の浪人流がこ人。出湯のうへで
きろうんやきこて。煙草人もあうまくこうこうこく人
うのんでまつうまくこげ。女のらうざうゆもおとへくを
ゆくとれぐ大ぜいのくの。雑兵ぎ出ることぞんじで。し

あてとゆうけてござうまもと。鼻拵をさげてまいりて。
三人ともこうゆ見とくもこうらうゆいゆうるめよあくこそあう
まくくこげ。ゆのくちきてくゆ流げ。ゆくらもきくくてゆうくきこ
のゆまんで。浪人流ハくてゆもまくくこげ。そんうこゆへう。金
でもくえとこうゆてござう強人流へこうここくゆ弱強て
ゆくてこうゆくくまもこゆもハこうゆでもゆこうくげ見こざうくこ。強人流
て。強こうこうがよいそうゆでござうまもこトゆよゆあへ拵こうくくこ
きくくうゆうきこゆもうのこくくよあいさうもゆこきこうゆうこうこ
行ごきこハこうのうちのうくきんちげひこうもこうもさめこて。あきこれてゆうこう

ものは日もくれるとなべてあんどうをさげてまゐる〳〵あるうとぐち。お西はめ〳〵ものをとんく人
〳〵もこゝにおのあるこゝでは。はぜんもものをぐるあげるがるいこゝ。お
ゆへはあんないをしませう　トうつとあくふづいてはるうも。
こゝろのそうのものどもきうてそんぶあつのそいとてんぐさるはのおとうけ
ぐべきとあるきこはもあのうくあまえべやまるくいでやうこもこひしまひ
ハウ　ゆるさん。そんぐ女もあるのぐ。あのるいこのおと
をきく　ゆへ。イヤそや。ものをぐさめまそこいそるまぐ。あんる
女ふ。ひよつとぎのうぐんでもまそこ。そんぐめまあよ
もまるゆへ。きうこはめつさるとをいふめくそゆやかよ

おそろ推の本三本くトひそくぐ出てまるゝいうこゝろくぐ
ろうちやくちやのふのゆへハイはめんるさゝ　ヨイるんぐ〳〵イヤ
ろうち生剤のまろのこゝろまろまし。今晩もま
いるまろふと。お約束でござろまゝとが。急病人がどざろ
て。そまくまろまゝこゝ。ろゝ名代まらうまゝと。
おままろぐいゝませうるヨイやおめるゝ。ふまろぐろ
いうゝ。まろぐゆへおよひやせるゝまでもせけうく
まろうまの。ぐぐまゝ叮嚀まいゝままろうゝトまろうゝよ

伊勢徳島
玉葱庵
ちゝこゝの
ちゝこゝよ
ちゝ
さめて
よる
も
ねる
もゝ
夜の
蔭
人

こゝ
の
く
よ
酒
を
熱の
玉
帚
ま
く
ら
も
の
世
あ
ま
ま
上
戸
讃州多度津
浦辺松九

ハヽちゝびと　りよいくらいよ　トあいそかるくいひさるをして、あい
だらうちて　とよるうぬべうこうくうて生て
あく、ほとゝかのちうみと、まゆらあんとうあてとうのもしさんを、ゆくそ
せーあそがちがひきる八ま　どのあつぐのせをしぐうまぐみきとかうも。
せんとくのさるーときくようきくくとうげつきて、やくうのあるいくちがひ
てんれべ々みとよるうゝゝせくゝんむどどてうるうどがひまゝまゝやうりう
きをそみる丞あぐどのせ　あるさがごのてどんどがうませんが毎
あんる。まくきくうて　ひよんることとやてまつうまゝと今政出宿ようさんる
ものがこまくることいよてで張人流ま寄をつけてめいく
ろふが　丸邪道さねぞうふしてあけ。退分出絶義ま。出級人さ寄がお
まくうきさるうまとゝでどうまをとうゝ。内後をかゝる

やてあきまきとくろゝておきざうひるゝどんどがうません。
いてるとよ。外のまるどやゝとちがひてゝるゝーのうえんゝ多い
お家ゝもまるゝるものゝもるまうまをとうえんゝるゝーが女
でゝるゝあるとゝの字性でどがうまをとうゝ。ゝうえんひゝとを
きひゝしきるゝものでもうけうえんでゝるまをきくゝとのやうる
ゝゝがあるゝゝ。ゝうく宿の級人流ハるゝーの至ゝめがふうゝ
まゝまゝとくるまゝどめるもおやぐ家がうきえくゝるけまゝ。ゝ
ういのゝぎえんのゝどもどがうくうません。ゝんるゝえん。ゝひちがう

くらうかとこもぐいとらるものごろ〳〵。大丈夫 かのさ
さやうでどざうまと。こアゆやうとちやきとこるさう
ませ トらてゆ〳〵きこハとれを 一沼沢さんるんごろおいらハ
きてたたかあまぎて
きよかるるぜく 大うとたきの皆をめづごろ〳〵てら
との声くへこまりて。そう〳〵ておいら〳〵もこまうことを和知
して。おいうめがふんごのうを知ぐ〳〵るゆぞあるとるいと。
と尾よとうつけてぬう 声ア ぐ〳〵もきをめ人うう。ごろゆう
ムうちづおう〳〵るうとづ。そんるとじやアあるめ人う稼

されぐの。きう〳〵ふんごで〳〵ごのまうりで。ゆるもきづ
久うとこう。あうめ人じやア稼人う。それごろうてきうい
とこアるく〳〵てもふんごで〳〵げづうごきのそうと稼人のご
う〳〵。ゆるもがるらいじやア稼人うとうとごう〳〵おいうアとふ
こまうめ人とうとうのと。おめ人うよむ〳〵のかづるもよく
るりてゆるづ。むうようるうとうとうこうとで。
おいうとうんごめよあいせる。三うるうの人のこり
ちやアあるめ人う〳〵。サアそうとごうてひようとおきの

ことをうけおめ人ごてまる[強]ゆげて まるんぶんの
そぐ[少]そそまそぐつ[コリヤ]ごみぞ[ゑ]ゑ[と]てんるせ[ゑ]ゑ
ちん今ゑそく[ゑ]裏ゑ[う]でもうて まるひと人[あと]でん
ゆげとぐでも[ゑ]ゑんでも[ゑ]おめ人ゑゆまゑ[ゑ]ゑ[ゑ]て ナント
おゑゑとぐふぐゑそゑまこめ人ゑ[強]ゑ[ゑ]ゑ[ゑ]ゑ[ゑ

この男も考へこんでそもごくの名者西門の
のらくもの。とろりのくこうるとこのうちへこまのうこらやア
ぐりこぐけ。きざぐやア稲へうぺ。そもごうこうへうも
とのうちとめどゆこてめるとらうこぐそのめどゆこて
めるうちへこるつこぐ因果のつくぐらさろきの物主
めぐ。ゆんこ考やぐうおつこう。考を稲へうこうおこぐ
とうぐろうぐ。まぐ考るとゆ。ぐるめゆあとよ
ゆこ。コリヤごようんぐへたそもおらこアさゆへゆげたへ

ほほさんぐそもあことうのむこく候イヤまてこく
候ぐ。まぐきこぐやア稲へぐうこうもまく名義
く候テそんるこ。ろこうこうるこアア稲へぐゆぐ去うこぐ
あるでまろうトいうこうちとのやどのありその戸をけれーくくくくあこく
あこぐうこうこくくくときいていリリヤ。もゆまこそゆる。ほほさんく
きこへうネのいろとくていリリヤ
コリヤごふこりのであろうトうこくくくして。ほこうのようぎの
きそへむぐとこらきこと。ほこ
ふるもそんこうきこうこのむこく。考用ごようぎやくあけてこくトうこくよ
ゆるいのゆ。用とする。号やうゆるーい。戸ごとうこうぐこうるんの

ス八カ府中
時雨志ノ丸

用ごでごとうきこ所のさんごやうまま。
今上覽どのぶ。孫ごこと云へるぐ。桃うおちて。
同じく鼻をいちどに死よまへまーまーこさやどざうて。
おとうとーてとうませやちちのへぐーかうめぶ。汁
医どのうこるうぶこうちぐやアるいひやーこうをあぶ
トうれをきてやハうとへこるうのきうめるところちぐく
こやうきをつくと
あうことのぶ大きる行とつぶさせやアぶこ云うー
ごようきぶさる孫へ。孫ぶさん。おあへの出ーのうの

ごとうあるハイごくこうよ。うれぶーをめよきるのご
やハイ小つうぶ入用ぶ。あうこうハ髪をきうふとうわ。
ツリやこうふーてるぶ。ハイやこうの名考つあんるの
やうを。きるーくちのあんだいでハきう孫へ元性の
出ろうの。こそひきうのとカくうう。孫でも髪をと
きりで。あのあへうんぶこのうけをあ。あけて。あの竹
玉。ぶんるいうきけぶちをーこやう。出を孫へうー。
そのうけをきるーてすーあのこれ。この髪をきう

[illegible]

義(ぎ)とのがれるまうまむとやどりくまとそこに

ふくてぶろ流ろうこてぷ。こーふうけとんだいまう

ゆくて。うまもうとあるうこ。いくそのとこされうく

るんともいりてさい稲くまやどろくへうまきとんだのこ

こ有せてあくぐよろうとくおりあぶ。詠歌きんごろごろう

[illegible]ソリヤるるかど。あるひつ紀いつぐそまちふもおよぶめくまき

ろのとに紀ぷ。あるとぐいひ昆けとそやろう。[illegible]

いひ昆けへひよろとぐるまあるもうまきちやぷ。ろんふもうろ

稲くぺ。コリヤアごふくてもぷ。おいろのちるひつたういくト

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の紙。馬をぬきんでゝ有が。えゝ衣とのゝ紙のやどやど。
こゝまゝまゝこゝとゝこゝとゝのゝ紙でまゝまゝこゝ。
そもゝ。そもゝ有てあきのゝこゝるこゝるゝこゝ。あき
出てそもゝやがゝこゝ。ナントゝえんどめよ。あゝ者ゝ孫人
久〳〵とゝこゝ出者ゝ。おゝ〳〵もゝえるこゝとゝこゝ。
おゝそゝめこゝ。まめの髪をきゝくゝ。ふゝおゝしの
こゝ。まゝてもゝ有こめ。えんぶ。尾よゝくまゝこゝて。孫
こゝ。ゝ。ゝ。

おちつかねてそのあるもやよかどあるべそのまうち
ふしくさまでもまくくと称入もやぐそうくくと
あのあるをそまちうびの歌

續勝栗毛十三編中冊終

本麦

宮坂